

公報

○太政官布告第六號
明治十年(十一月)第七拾九號布告第二條第二項左ノ通改正
酒類硝石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ酒造用ノ諸稅物ヲ公
賣スルコトヲ得
但酒類並酒造用諸稅物ハ自他ノ所有ヲ問ハス其一部又
ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス
右奉 勅旨布告候事
太政大臣三條實美
大藏卿 松方正義
明治十七年三月十一日

時事新報

左ノ一篇ハ在英國ノ特別通信者ガ倫敦一月十七日附テ
以テ本社ニ寄送シタル書中ノ一節ナリ歐洲各國ノ交際
就中目下東京並ニ埃及事件ニ關スル英佛兩國ノ交際ノ
實況ヲ知ルニ足ルモノアレバ之ヲ擧ゲテ本日ノ社説ニ
代フ
時事新報記者

東京並ニ埃及事件ニ關スル英佛兩國ノ交際

日本ノ人ハ萬事ニ抜ケ目ナリ誠ニ智慮深ク美術ノ事文學ノ
事等世界中何レノ國ノ人ニ對スルモ決シテ愧ヅル所ナシト
雖ドモ明治年代ニ至テ初テ其關係ヲ生ゼシ彼ノ外交ノ事ニ
至テハ誠ニ未熟ニシテ動モスレバ全般ノ連絡ヲ一目ニ見貫
ク能ハザルコトアリ去迎此一事ヲ以テ敢テ日本人ヲ愚ナリ
ト云フテ之ヲ蔑視スルニハ非ズ古來我國ハ神國ト稱シテ自
尊シ他國ノ人ヲ夷狄トシテ輕蔑シ國ヲ鎮シテ一切之ト交際
セザリシコトナレバ明治ノ今日ニ至テ遽ニ其外交ノ術ニ熟
練ヲ望ムモ決シテ得ベキコトアラズ其得ベカラザルニ甚ク道
理アルモノト云フモ敢テ過言コハアラザルベシ反之歐羅巴
人ハ古來互ニ其國境ヲ接壤シテ國ヲ建テ會テ領國ナドノ事
アラザリシガ故ニ外交ノ政略ハ已ニ古ヨリ之アルモノニ
シテ今日ニ至テハ已ニ其術數ニ練達シタル者ナリ其外交ノ
政略ハ專ラ之ヲ政府ノ手ニ委ネズ今日ハ怡モ全國ノ輿論ヲ
以テ直ニ其交際ヲ掌ルモノナリ表向ハ公使又領事ナドヲ派
出シテ互ニ交際スルガ如クナレドモ其實ハ輿論ノ機關タル
新聞ノ議論ヲ以テ交際ノ具ニ充ツルナリ故ニ國々ノ關係連
絡ヲ知ラントセバ先ツ第一其國ノ要機タル新聞ノ社説ヲ視
テ其概畧ヲ知ルコトヲ得ルナリ例ヘバ佛國ノ政略ガ餘リ外征
ヲ事トシテ以テ英國ノ利ヲ損スルコトアリトセンカ巴里派出
ノ英公使ヲ以テ直ニ佛政府ニ掛ケ合ヒ其非舉ヲ責ムル時ハ
其談判角立テ却テ兩國ノ意氣地トナリ不和ヲ生ズルノ恐ア
レバ可成公使ニ依ラズ先ツ新聞紙ノ論ヲ以テ其非舉ナルコ
トヲ得ル時ニ英政府ノ意ノアル所ヲ謀スルコトナリ英國ニテハ
故ノ「タイムズ」新聞ガ即チ英國ノ機關ニシテ内國政治ノ事
ハ兎モ角モ其外交政略ノ事ニ就テタル論說ハ重モ時ノ在
輿論ノ意見ヲ表シテ外國政府ヲシテ豫メ其意ヲ知ラシムル
ナリ故ニ今英國ト他國トノ交際ハ親密ナリヤ又不和ナリヤ
ヲ知ルニハ先ツ「タイムズ」ノ社説ヲ讀テ其大概ヲ知ルコト
ヲ得ルナリ最モ外交政策ハ多ク秘密ヲ要スル者ナレバ其概
細ノ事ニ至テハ英國外務卿ガ如何ナル書翰ヲ他ノ政府ニ送

リシカ又如何ナルモノヲ受取リシカ固ヨリ之ヲ知ルニ由テ
シト雖モ尙ホ其全体ノ模様ハ之ヲ窺ヒ知ルコトヲ得ルナリ乍
去外國ノ政府ニ於テモ「タイムズ」ハ外交ニ關シ英政府ノ意
ヲ繼承スル者ナリトノ事ヲ既ニ熟知スルコトナレバ其社説ノ
文章ノ如キ誠ニ穩和審實ニシテ他ノ無責任ノ小新聞ノ如ク
決シテ過激亂暴ノ字句アルナシ實ニ紳士老練者ノ文章タル
ニ愧ヂザルナリ去レバ「タイムズ」ノ文章ハ實ニ名文妙筆ナ
リト毎ニ英人ノ稱賞シテ止マザル所就中其外交政策論ノ如
キハ其文極メテ婉曲ニシテ或ハ其文意ノアル所ヲ知ルニ苦
ム程ノモノアリ兎ニ角ニ「タイムズ」新聞ハ以テ世界ノ全勢
ヲ察スルニ足ル者ナリト云フ可ク閑話休題般來度々通信
シタル彼ノ東京事件ニ付テ近頃ニ至リ「タイムズ」ハ何トナ
ク無言ノ姿ニシテ最初佛國ノ政策ヲ攻擊セシモノ似ズ全
其論鋒ヲ藏メテ先ツ之ヲ傍觀シ時勢ノ變遷ヲ待テ居ル者ノ
如シ此四五週前マデハ頻ニ支那ヲ保庇シテ佛國ノ外征策ヲ
駁シ利ヲ以テ誘ヒ威ヲ以テ威ドシ議論百出人ノ意表ニ出テ
讀者ヲシテ思ハズ快ト呼バシメシモノ今日ハ怡モ啞兒ノ苦樂
ヲ嘗メシト一般復タ口ヲ開クコトナシ誠ニ以テ奇異ノ至リナ
リ去迎今迷ニ英國ガ支那ニ薄クシテ佛ニ厚キノ理由モナク
何カ内實ノアルコトヲラント能ク々々其事情ヲ探索スルニ其
原因ハ全ク埃及「スーダン」ノ反乱ニ胚胎スル者ノ如ク蓋シ
彼ノ「アラビ」將軍ノ反亂マデハ英佛兩國ニテ埃及國財政
ノ實權ヲ握リ一切之ガ配下ニ屬シ其狀恰モ埃及ハ英佛兩國
ノ妾ナリシモノ今日ニ至テハ佛國ノ威權ハ全ク其跡ヲ「ナイ
ル」河畔ニ絶テ獨リ英國ノ專有ニ屬スル者トナレリ此ニ至
テ佛國ノ不平一方ナラズ何卒以前ノ如ク兩國ノ姿ニ復シシ
メント懼ケ手ヲ盡セドモ一昨年「アラビ」將軍ノ反亂鎮定
ノ際佛國ガ英兵ニ力ヲ協セテ之ヲ助援セズ袖手傍觀シタル
失策アレバマカ今日ニ至テ其不平ヲ訴フベキモアラズ
恰モ其遺恨鬱悶ヲ今正サニ東京ニ泄ラセシ者ナリ故ニ埃及
ノ兵亂漸ク治テ英權ノ基本堅固ナルトハ佛國ノ之ヲ觀望ス
ル恐モアラザレバ英ノ新聞ハ從前頻リニ東京事件ヲ駁撃シ
テ其政策ヲ誹謗セシモノ彼ノ「スーダン」ノ反亂稍延シ
テ埃及本土ノ内情甚ク穩カナラサル今日ニ當テハ或ハ佛國
ノ其隙ニ乘シテ當日ノ威權ヲ「ナイル」河畔ニ復セントスト
歐証アルガ故ニ餘リ東京事件ヲ攻擊スルコトヲ爲シ得ザル者
ナリ蓋シ之ヲ攻擊スルハ却テ佛國ノ爲メニ埃及ノ政策ヲ
駁撃サルハ恐アレバナリ故ニ今日ノ勢ハ英佛ノ睨ミ合ニ
テ互ニ時勢ノ變遷ニ任ラテ好機會ノ到ルヲ待ツ者ノ如ク是
レ「タイムズ」新聞ガ啞兒ノ苦樂ヲ嘗メシト一般述ニ其口
ヲ閉鎖シテ默々タル所以ナリ歐洲ノ外交政略ハ隨分込入り
タル者ト知ルベシ

○十四日午後二時神戶發 英公使フランケント氏昨日午後
九日ノ誤植

八時着港今日午前四時

雜

○內閣出御 聖上ハ昨日
親しく政務を聞食され
以大臣參議何れも出明
○英女皇 英女皇ハ
リス内親王を伴ひボル
耳曼お赴くとのよど
○學校巡覽 去る十一
數名を隨へ東京外國學
○大審院集會 同院
積し何分事務の抄取支
て是等に關し昨十四日
集會を開き談合あり
○高島陸軍中將 去日
四部監軍部長高島中將
の等かりしが發達の期
して一時出發と見合せ
外四名の醫官の交代と
氣に赴く由
○朝鮮行 工部權大
用以て朝鮮國へ差遣け
○フランケント公使
國公使フランケント氏
橫濱へ向け出港せし
橫濱へ着するとあら
○伊國公使の宴會 昨
公使は麹町區三年町
を招きて懇親の宴を
○歸海行 參事院議
賜暇を得て一昨日熱
病氣の爲なりとの噂
○官廳彙報 第一軍
幸作氏の第一軍管
備軍司令官步兵少佐
第二聯隊第三大隊長
學校兵學教官を補せ
日南海、西海、山陸の
張を命せられ、海軍
兼補せられ、調度局副
監査課長欠員中同課
軍醫中監加賀美光賢氏
海軍軍醫少監前田清
れ、海軍補少匠西兼
日農商務省よ於て管

電報

○十四日午後二時神戶發 英公使フランケント氏昨日午後
九日ノ誤植